

1 内政

コロニア市内から空港までの歩道が建設中

第14会期連邦議会に於いてポンペイ選出のF.パーマン議員及びモセス議員のイニシアティヴにより、コロニア市内から空港までのコースウェイ通り沿いに人々の安全と健康を促進させるための歩道を整備するための予算が承認され、工事がはじまった。また、第20会期の連邦議会においても引き続き歩道建設予算が承認され目下建設工事が進行中である。

（12月14日付 カセリエプレス紙）

2 外交

自由連合協定（コンパクト）第三章（国防）に関わるFSM・米合同委員会が開催される

1日、チューク州ウエノ島にて自由連合協定第三章の国防に関わる合同委員会がロバート外務大臣主催で開催された。米側からチャットフィールド海軍准将（北太平洋マリアナ諸島、パラオ、FSMを管轄）が出席した。会合にはエリモチューク州知事やライリー駐ミクロネシア米大使が参加し、引き続きコンパクトに基づき米がFSMの国防にコミットしていく旨が確認された。

（12月14日付 カセリエプレス紙）

モンリオール議定書締結30周年

クリスチャン大統領はカナダ、モンリオールで開催されたモンリオール議定書締結30周年記念会議に出席した。挨拶の中で大統領は、ミクロネシアは議定書が締結された1997年以来、世界の温室効果ガス削減のための努力を続けてきており、2009年には加盟国による更なる削減を促すための議定書の修正を提案し承認された旨を言及した。

（12月14日付 カセリエプレス紙）

3 経 済

米内務省がミクロネシア連邦の水道インフラ整備に6.3百万ドルを支援

米国内務省がポンペイ州のセケレ地区の水道事業のために自由連合協定（コンパクト）資金から6.3百万ドルを支援した。この財政支援はポンペイ州内の

水道供給システムを拡大しようとするポンペイ州公共事業局を支援するものであり、また、ミクロネシア連邦の自立を支援するものでもある。このプロジェクトは現在フェーズ 2 にあり、8 インチの水道管を 5 マイル設置する計画となっている。本プロジェクトは計画管理事務所 (Project Management Office) を通してポンペイ州により実施されることになっており、2019 年までにセケレ地区からキチ地区まで水道を供給することを目的としている。

(12月18日付ミクロネシア連邦公共情報室)

4 経済協力

ミクロネシア連邦、たった1つの小型飛行機に大きな期待を寄せる

先日ミクロネシア連邦に贈与された中国 AVIC Harbin 社製造の小型飛行機、Y-12 の使い道は正式には決まっていないが、主にヤップ州で使用される見込みだ。その理由の1つとなるのは先日、ユナイテッド航空が、採算がとれない事を理由にヤップ-パラオ間の直行便の廃止を決定したことである。同決定によって既にヤップ州ではホテルやダイビングツアーのキャンセルなど経済的にマイナスの影響が出てきており、今後同州の観光産業に打撃を与える見込み。その代替としてミクロネシア連邦政府は17席しかない同小型飛行機をパラオへの直行便として定期的に運航したいと考えており、しばらくの間は現在ヤップ州内の離島間を運行している PMA (Pacific Missionary Aviation) に Y-12 の運行・整備を一任する予定。また、連邦政府は同小型飛行機を旅客機としてだけでなく近年増加傾向にある違法漁船等に関する海上巡視機としても使用したいと考えている。地形上、ミクロネシア連邦は輸送サービスへの多くの需要があり、政府は中国にもう一機贈与してもらえるように要請している模様。

(12月13日付 カセリエプレス紙)

日本政府、建設機械をPTAに贈与

5日、ポンペイ州政府庁舎前で堀江良一大使は牽引自動車(1台)、タンクローリー(1台)、ダンプトラック(2台)の重機をポンペイ州政府運輸管理局(PTA)に引き渡した。トレーニング費用を含んだ贈与金額は約5,200万円である。堀江大使は、今まで過去に日本政府が ODA で供与した重機類は他から牽引自動車を借りなければ移動させる事ができなかったが、今回供与した牽引自動車によりそれらの重機を EPA 自身でいつでも運ぶことが可能になったと述べた。引き渡し式にはオリバー・ポンペイ州副知事をはじめとする州政府職員、運輸管理局の職員及び日本大使館の職員が同席した。

(12月4日付 カセリエプレス紙)

クリスマス・ドロップ2017

グアムのアンダーセン基地はクリスマス・ドロップ2017を12月11日に開始した。クリスマス・ドロップは米空軍によって1952年に開始された。非営利団体の2017クリスマス・ドロップ委員会は現金53,000米ドルと20,000米ドル相当の釣具,教材,おもちゃなどを寄付として集め,これらの物品は北マリアナ諸島,ミクロネシア連邦,パラオ共和国に配布される予定。

(12月12日付 カセレリエプレス紙)

JICA,「大洋州ハイブリッド発電システム導入プロジェクト」を開始

JICAは「大洋州ハイブリッド発電システム導入プロジェクト」を開始した。同プロジェクトは5年にわたりフィジー,キリバス,ツバル,ミクロネシア,マーシャルの5カ国において,各国の再生エネルギーの導入状況等を踏まえ,ディーゼルの適切かつ経済的な運用維持管理に加えて,再生エネルギーの適切規模での導入・運転を支援し,ディーゼルと再生エネルギーによるハイブリッド発電システムの導入を推進するものである。専門家チームは10月30日から4州を訪問し,11月25日には第一回共同調整委員会(JCC)をコスラエ州政府で開催し,実施体制やスケジュールなどについて話し合いを行った。JCCにはヘンリー資源開発大臣をはじめとする連邦政府関係者や各州政府関係者が出席した。2018年2月には沖縄で日本のハイブリッド発電システムを学ぶ研修が行われる予定で各州政府から代表者1名が参加する。

(12月1日付 カセレリエプレス紙)

5 文化・教育

COMで学位授与式が行われる

18日,COM(ミクロネシア短期大学)で第66回目となる学位授与式が行われ,今期卒業する合計209名の学生に対してディジー学長から学位が授与された。

(12月18日付 カセレリエプレス紙)

日FSM国交30周年を祝う写真展が東京で開催

14日,日FSM国交30周年を祝う関連行事の一環として,APIC主催で東京の市ヶ谷のJICAグローバルプラザにてフロイド・タケウチ写真家によるチューク州及びザビエル高校の写真展のオープニングが開催された。オープニングには佐藤APIC理事長やフリッツ駐日ミクロネシア大使他が出席した。1月11日まで開催予定。

(12月 カセレリエプレス紙)